

その常識、変えてみせる。

SHIFT



2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月10日

上場会社名 株式会社SHIFT 上場取引所 東
 コード番号 3697 URL https://www.shiftinc.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 丹下 大
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 服部 太一 (TEL) 03(6809)1165
 四半期報告書提出予定日 2023年4月11日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第2四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	40,343	35.1	5,082	32.8	5,408	27.3	2,185	△17.9
2022年8月期第2四半期	29,858	47.2	3,826	157.0	4,249	121.0	2,662	145.1

(注) 包括利益 2023年8月期第2四半期 2,353百万円(0.0%) 2022年8月期第2四半期 2,353百万円(124.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第2四半期	123.96	123.79
2022年8月期第2四半期	151.57	150.77

(注) 1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に用いられた普通株式の期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	44,482	28,424	62.5
2022年8月期	40,230	26,007	63.6

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 27,806百万円 2022年8月期 25,593百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	87,000	34.1	9,400	36.0	9,500	25.8	6,300	26.7	357.47

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) 株式会社クロノス、除外 1社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の摘要)」をご参照ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年8月期2Q	17,818,114株	2022年8月期	17,811,114株
2023年8月期2Q	165,725株	2022年8月期	187,445株
2023年8月期2Q	17,629,535株	2022年8月期2Q	17,566,503株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

(注) 期末自己株式数には、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式(2023年8月期2Q 165,370株、2022年8月期 187,100株)が含まれております。また、期中平均株式数の算出に当たり、「株式給付型ESOP信託口」が保有する当社株式の期中平均株式数を控除する自己株式数に含めております。(2023年8月期2Q 182,707株、2022年8月期2Q 164,688株)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに變更いたしました。なお、比較を容易にするために、前連結会計年度及び前第2四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10
(収益認識関係)	11
(重要な後発事象)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症予防を目的とした行動規制が徐々に緩和されるなど、ウィズコロナの下で国内経済は緩やかに持ち直しを始めております。一方で、ロシア・ウクライナ情勢は長期化しており、原油をはじめとした原材料費の高騰による物価高騰もあり、引き続き、経済の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループは様々な業界のお客様にサービスを提供しており、特定の業種業態に依存した構造ではないため、新型コロナウイルス感染症の業績への影響は限定的なものとなっており、この傾向は続くものと予想しております。

当社グループがサービスを提供するソフトウェア関連市場においては、複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システムが残存した場合に想定される国際競争への遅れや我が国の経済の停滞などを指す「2025年の崖」がますます近づいてきた中で、産業界全体に変革を起こすDX（デジタル・トランスフォーメーション）という概念が浸透し続けております。その中で、既存システムのクラウド環境などへの移行を図ることでコスト削減を実現する「守りのDX」とITを駆使して新ビジネスを立ち上げる「攻めのDX」の両方に対しサービス提供が出来る人材の確保や育成、再教育（リスキリング）が重要になると考えております。

また、リモートワークの進展により、ネットワークやアプリケーションを中心に社会全体におけるセキュリティ領域への注目が集まる中、Emotetをはじめとしたマルウェアへの感染や、ソフトウェアの脆弱性を悪用した攻撃等によるセキュリティリスクの顕在化が進み、その重要性は一層高まってきております。

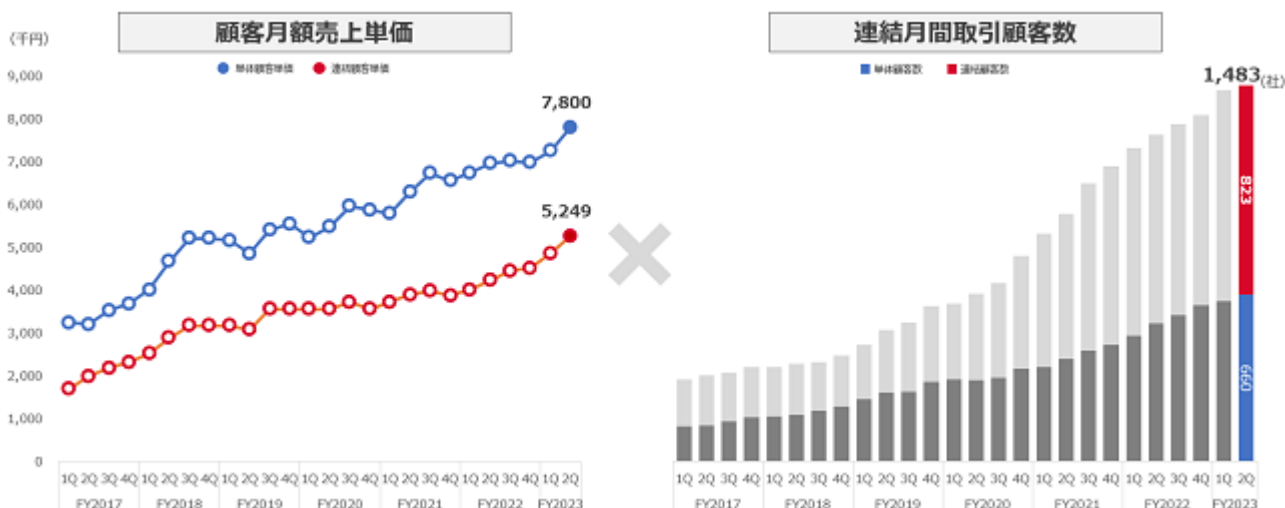
こうした経営環境の中、当社グループでは売上高1,000億円企業に向けた成長戦略「SHIFT1000 -シフトワンサウザンド-」を掲げており、その実現に向け、引き続き営業力の強化による顧客基盤の拡大、構造化・数式化され科学されたM&A戦略の実現、IT業界の構造変化に合わせたサービス提供力の向上、多様な人材獲得手法の展開を重点課題として取り組んでおります。

この結果、当第2四半期連結累計期間においては売上高40,343百万円（前年同期比35.1%増）、営業利益5,082百万円（前年同期比32.8%増）となりました。加えて特別損失として投資有価証券評価損1,573百万円を計上しております。これにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,185百万円（前年同期比17.9%減）となりました。

当社グループは、「新しい価値の概念を追求し、誠実に世の中に価値を提供する」という企業理念のもと、持続的に社会課題を解決する会社としての成長を目指しております。その実現のマイルストーンとして売上高目標を設定しており、企業理念の実現と企業価値の最大化を図ってまいります。なお、当第2四半期連結累計期間における業績予想値（第2四半期累計）に対する達成率は以下のとおりであります。

	業績予想値 (第2四半期累計) (百万円)	当第2四半期実績値 (百万円)	達成率
売上高	40,500	40,343	99.6%
営業利益	4,200	5,082	121.0%
経常利益	4,300	5,408	125.8%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	2,700	2,185	80.9%

上記のとおり、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高成長を伴った業績予想値という目標のなか、売上高、営業利益、経常利益の各水準は順調に推移しております。また、顧客単価、顧客数、エンジニア単価、エンジニア数なども引き続き堅調に増加・拡大をしており、当第2四半期連結累計期間におけるこれらの指標及び2017年8月期からの四半期ごとの推移は以下のとおりであります。



*顧客月額売上単価は、以下の2つの数値となります。

(1) 単体顧客単価は①単体売上を②単体顧客数で除した数値となります。

① 単体売上：ライセンスや教育サービスなどの顧客を除き、月次で稼働がある、もしくは計上された売上高を四半期で合計した数値

② 単体顧客数：ライセンスや教育サービスなどの顧客を除き、月次で稼働がある、もしくは売上が計上された顧客数を四半期で合計した数値

(2) 連結顧客単価は①単体売上と③連結子会社売上を合算したものを、②単体顧客数と④連結子会社顧客数の合計で除した数値となります。

③ 連結子会社売上：月次の売上高を四半期で合算した売上高

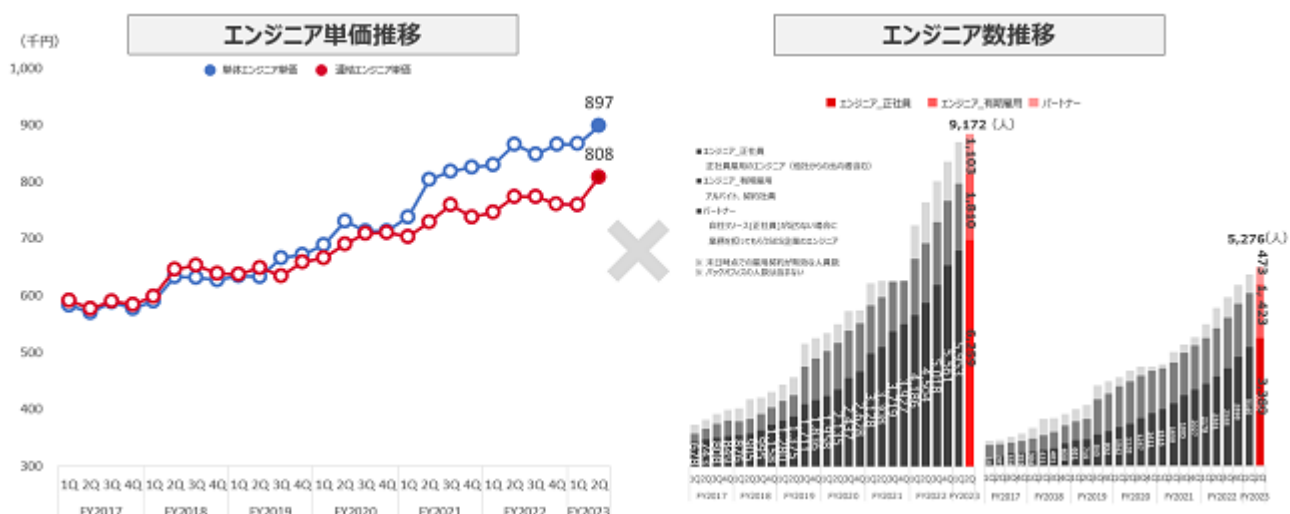
④ 連結子会社顧客数：月次で売上計上があった顧客数を四半期で合算した数値

なお、顧客単価を算出するに当たっては、連結損益計算書に計上されている売上高から、顧客単価として業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業に係る売上高を控除しております。

*連結月間取引顧客数は⑤単体顧客数と⑥連結子会社顧客数の合算数値となります。

⑤ 単体顧客数：月次で稼働・売上計上があった顧客数の3か月の平均値

⑥ 連結子会社顧客数：月次で売上高を計上した顧客数の3か月の平均値



*エンジニア単価推移は、以下の2つの数値となります。

(1) 単体エンジニア単価は、①単体売上高を②単体エンジニア数で除した数値となります。

① 単体売上高：主に準委任契約をしている案件の売上高

② 単体エンジニア数：売上計上がある案件の稼働をしていたエンジニアとその管理に携わった人員の工数を合算し人月換算した数値

(2) 連結エンジニア単価は、①単体売上高と③連結子会社売上高を合算した売上高を、②単体エンジニア数と④連結子会社エンジニア数を合算したエンジニア数で除した数値となります。

③ 連結子会社売上高：月次の売上高を四半期で合算した売上高

④ 連結子会社エンジニア数：月次の所属エンジニア数を四半期で合算した所属エンジニア数

なお、エンジニア単価を算出するに当たっては、連結損益計算書に計上されている売上高から、エンジニア単価として業績を管理することが適切ではないと認められる一部の事業に係る売上高を控除しております。

*連結エンジニア数は、四半期末時点において、売上原価の労務費・外注費として計上される当社グループの正社員、契約社員、アルバイトの所属人数及び協力会社の従業員契約者数の合算数値であります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「エンタープライズ市場」及び「エンターテインメント市場」から、「ソフトウェアテスト関連サービス」、「ソフトウェア開発関連サービス」及び「その他近接サービス」に変更しております。このため、前第2四半期連結累計期間との比較については、セグメント変更後の数値に組み替えて行っております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

①ソフトウェアテスト関連サービス

ソフトウェアテスト関連サービスでは、主にソフトウェアテスト・品質保証、コンサルティング・PMO、カスタマーサポート、セキュリティといったサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、既存顧客に対する顧客目線での提案の徹底により、顧客月額売上単価が上昇した結果、当第2四半期連結累計期間のソフトウェアテスト関連サービスの売上高は26,820百万円（前年同期比40.2%増）、営業利益は6,158百万円（前年同期比35.3%増）となりました。

②ソフトウェア開発関連サービス

ソフトウェア開発関連サービスでは、主にシステム開発、システム性能改善、IT戦略策定、システム企画・設計、エンジニアマッチングプラットフォーム、データ分析などのソフトウェア開発プロセスに直接的に関与するサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、順調なエンジニア採用及びグループ会社間の連携強化によって、当第2四半期連結累計期間のソフトウェア開発関連サービスの売上高は12,301百万円（前年同期比35.2%増）、営業利益は1,038百万円（前年同期比70.0%増）となりました。

③その他近接サービス

その他近接サービスでは、主にWeb企画制作、マーケティング、キッティング、クラウドサービス、ローカライズ、M&A・PMI (Post Merger Integration) など、ソフトウェア開発と近接するマーケットで、当社の既存事業とは異なるビジネスモデルに基づくサービスを提供しております。

当第2四半期連結累計期間では、一部の連結子会社において収益性が悪化した結果、当第2四半期連結累計期間のその他近接サービスの売上高は3,089百万円（前年同期比4.5%増）、営業利益は238百万円（前年同期比37.2%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4,252百万円増加し、44,482百万円となりました。これは主に、評価損の計上により投資有価証券が1,525百万円減少しましたが、借入等により現金及び預金が3,635百万円、売上増加により売掛金及び契約資産が1,326百万円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債につきましては、前連結会計年度末と比べ1,834百万円増加し、16,057百万円となりました。これは主に、約定弁済等のため長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）が610百万円減少したものの、運転資金の確保を目的とした新規借入により短期借入金が増加した3,000百万円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ2,417百万円増加し、28,424百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が2,185百万円増加したこと等によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)の残高は、前連結会計年度末より3,637百万円増加した結果、16,536百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは2,618百万円の収入(前年同期は3,709百万円の収入)となりました。これは主に、売上債権の増加1,283百万円や法人税等の支払額1,538百万円等の資金の減少要因があったものの、税金等調整前四半期純利益の計上3,834百万円、投資有価証券評価損の計上1,573百万円、のれん償却額445百万円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは1,364百万円の支出(前年同期は4,474百万円の支出)となりました。これは主に、敷金の差入による支出693百万円や有形固定資産の取得による支出460百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは2,388百万円の収入(前年同期は1,507百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出610百万円等の資金の減少要因があったものの、短期借入金の純増減額3,000百万円等の資金の増加要因があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年8月期の業績予想につきましては、2022年10月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,921	16,557
売掛金及び契約資産	7,981	9,307
棚卸資産	799	828
その他	723	903
貸倒引当金	△2	△11
流動資産合計	22,423	27,586
固定資産		
有形固定資産	1,194	1,440
無形固定資産		
のれん	6,488	6,134
その他	972	976
無形固定資産合計	7,461	7,110
投資その他の資産		
投資有価証券	7,469	5,943
その他	1,730	2,449
貸倒引当金	△49	△47
投資その他の資産合計	9,150	8,345
固定資産合計	17,806	16,896
資産合計	40,230	44,482
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,554	1,507
短期借入金	20	3,020
1年内返済予定の長期借入金	1,226	1,214
未払費用	2,856	3,128
未払法人税等	1,523	1,511
賞与引当金	184	246
受注損失引当金	34	7
その他	4,326	3,576
流動負債合計	11,726	14,211
固定負債		
長期借入金	2,306	1,709
その他	189	136
固定負債合計	2,496	1,845
負債合計	14,222	16,057
純資産の部		
株主資本		
資本金	77	10
資本剰余金	16,616	16,684
利益剰余金	11,655	13,841
自己株式	△2,963	△2,946
株主資本合計	25,386	27,590
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	174	190
為替換算調整勘定	32	24
その他の包括利益累計額合計	206	215
株式引受権	37	78
新株予約権	16	22
非支配株主持分	359	518
純資産合計	26,007	28,424
負債純資産合計	40,230	44,482

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
売上高	29,858	40,343
売上原価	19,835	26,783
売上総利益	10,022	13,560
販売費及び一般管理費	6,196	8,477
営業利益	3,826	5,082
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	58	63
助成金収入	362	263
その他	11	10
営業外収益合計	433	337
営業外費用		
支払利息	8	7
為替差損	—	2
支払手数料	2	0
その他	0	0
営業外費用合計	10	11
経常利益	4,249	5,408
特別損失		
投資有価証券評価損	—	1,573
特別損失合計	—	1,573
税金等調整前四半期純利益	4,249	3,834
法人税等	1,539	1,490
四半期純利益	2,709	2,344
非支配株主に帰属する四半期純利益	47	159
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,662	2,185

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
四半期純利益	2,709	2,344
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△363	16
為替換算調整勘定	7	△7
その他の包括利益合計	△356	9
四半期包括利益	2,353	2,353
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,306	2,194
非支配株主に係る四半期包括利益	47	158

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,249	3,834
減価償却費	249	305
のれん償却額	445	445
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△22	6
賞与引当金の増減額(△は減少)	43	25
受注損失引当金の増減額(△は減少)	—	△27
受取利息及び受取配当金	△58	△63
支払利息	8	7
助成金収入	△362	△263
為替差損益(△は益)	△3	2
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,573
売上債権の増減額(△は増加)	△864	△1,283
棚卸資産の増減額(△は増加)	△156	△29
前払費用の増減額(△は増加)	△241	△144
仕入債務の増減額(△は減少)	247	△50
未払消費税等の増減額(△は減少)	△81	△428
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	1,002	△49
その他	34	△22
小計	4,489	3,838
利息及び配当金の受取額	58	63
利息の支払額	△8	△7
助成金の受取額	362	263
法人税等の支払額	△1,193	△1,538
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,709	2,618
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△221	△460
無形固定資産の取得による支出	△42	△94
投資有価証券の取得による支出	△4,184	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△122
敷金の差入による支出	△34	△693
敷金の回収による収入	7	5
その他	0	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,474	△1,364
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,010	3,000
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,084	△610
株式の発行による収入	211	1
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△640	—
自己株式の取得による支出	△2,000	△0
その他	△3	△2
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,507	2,388
現金及び現金同等物に係る換算差額	9	△6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,262	3,637
現金及び現金同等物の期首残高	14,147	12,899
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,884	16,536

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェアテ スト関連サービ ス	ソフトウェア開 発関連サービス	その他近接サー ビス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	19,108	8,077	2,671	29,858	—	29,858
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	16	1,022	285	1,325	△1,325	—
計	19,125	9,100	2,957	31,183	△1,325	29,858
セグメント利益	4,552	611	380	5,544	△1,717	3,826

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,717百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ソフトウェアテ スト関連サービ ス	ソフトウェア開 発関連サービス	その他近接サー ビス	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	26,752	10,943	2,648	40,343	—	40,343
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	68	1,358	441	1,868	△1,868	—
計	26,820	12,301	3,089	42,212	△1,868	40,343
セグメント利益	6,158	1,038	238	7,435	△2,352	5,082

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,352百万円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「エンタープライズ市場」及び「エンターテインメント市場」から、「ソフトウェアテスト関連サービス」、「ソフトウェア開発関連サービス」及び「その他近接サービス」に変更しております。この変更は、グループ会社の増加と提供するサービス領域が拡大する中で、従来のサービス提供先の市場による区分よりも、提供するサービスの種類による区分の方が、より適切に当社グループが有するサービスやビジネスモデルを管理し、その実績を評価できるものと判断したためであります。

なお、変更後の報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は以下のとおりであります。

セグメント	製品及びサービス
ソフトウェアテスト関連サービス	主にソフトウェアテスト・品質保証、コンサルティング・PMO、カスタマーサポート、セキュリティ等
ソフトウェア開発関連サービス	主にシステム開発、システム性能改善、IT戦略策定、システム企画・設計、エンジニアマッチングプラットフォーム、データ分析等
その他近接サービス	主にWeb企画制作、マーケティング、キitting、クラウドサービス、ローカライズ、M&A/PMI等

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	
エンドユーザー企業	15,523	2,533	2,561	20,618
パートナー企業	3,585	5,543	110	9,239
顧客との契約から生 じる収益	19,108	8,077	2,671	29,858
外部顧客への売上高	19,108	8,077	2,671	29,858

当第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計
	ソフトウェアテスト 関連サービス	ソフトウェア開発 関連サービス	その他近接 サービス	
エンドユーザー企業	20,285	3,640	2,514	26,440
パートナー企業	6,466	7,302	134	13,902
顧客との契約から生 じる収益	26,752	10,943	2,648	40,343
外部顧客への売上高	26,752	10,943	2,648	40,343

(収益の分解に用いる区分の変更)

(セグメント情報等)に記載のとおり、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「エンタープライズ市場」及び「エンターテインメント市場」から、「ソフトウェアテスト関連サービス」、「ソフトウェア開発関連サービス」及び「その他近接サービス」に変更しております。これに伴い、第1四半期連結会計期間より、「顧客との契約から生じる収益を分解した情報」についても、従来の「財又はサービスの種類」に基づく区分から、「顧客の種類」に基づく区分に変更しております。

この変更は、グループ会社の増加と提供するサービス領域が拡大する中で、当社グループが有する多様なサービスやビジネスモデルをより適切に管理し、また、エンドユーザー企業からの直接の取引額を開示することが、財務諸表利用者にとっても有用であると判断したためであります。

(重要な後発事象)

(取得による企業結合)

1. 株式会社キャリアシステムズの株式の取得

当社は、2023年1月30日開催の取締役会において、株式会社キャリアシステムズの全株式を取得することを決議し、2023年3月1日付で株式譲渡契約を締結の上、同社の全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称：株式会社キャリアシステムズ

事業の内容：ソフトウェア開発・ITインフラ構築・保守運用・組込開発等

②企業結合を行った主な理由

株式会社キャリアシステムズは、基盤の構築、保守・運用やアプリケーション開発を中心に幅広くサービスを展開しています。当社グループとしては、同領域の需要は旺盛であると認識しており、グループとしてサービス提供力のさらなる強化が必要であると考えているため子会社といたしました。

③企業結合日

2023年3月1日

④企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤結合後企業の名称

結合前から変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式会社キャリアシステムズの株式を100%取得したためであります。

(2) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,177百万円
取得原価		1,177百万円

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー等に対する報酬・手数料等 78百万円

(4) 取得原価の配分に関する事項

①企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

②発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

2. EQIQ株式会社のバイリンガル人材紹介事業の吸収分割

当社は、2023年3月10日付の取締役会において、EIQ株式会社の子会社であるEQIQ株式会社のバイリンガル人材紹介事業を承継する吸収分割契約を締結することを決議し、2023年3月10日付で吸収分割契約を締結いたしました。

(1) 企業結合の概要

①相手企業の名称及び取得した事業の内容

相手企業の名称：EIQ株式会社

取得した事業の内容：バイリンガル人材紹介事業

②企業結合を行った主な理由

SHIFTグループが支援している顧客のDX案件の中には、多言語対応が必要なものも数多く存在し、マルチナショナルな環境で活躍できる人材の需要が、SHIFTグループにおいて高まりつつあります。EIQ株式会社のバイリンガル人材紹介事業がSHIFTグループに参画することで、ブリッジエンジニア（英語などの異なる言語や文化を持つプロジェクトメンバーがより生産的に業務を推進できるよう、メンバーマネジメントをすることを主な業務とするエンジニア）やバイリンガルエンジニア、高い需要はあるが市場に多く存在しない人材に関するSHIFTグループの採用力を強化していくことができると考えているため吸収分割契約を締結いたしました。

③企業結合日

2023年5月1日(予定)

④企業結合の法的形式

当社を吸収分割承継会社とし、EQIQ株式会社を吸収分割会社とする吸収分割

⑤結合後企業の名称

結合前から変更はありません。

⑥取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価としてEQIQ株式会社の事業を承継するためであります。

(2) 取得した事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,000百万円(予定)
取得原価		1,000百万円(予定)

(3) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー等に対する報酬・手数料等 59百万円(予定)

(4) 取得原価の配分に関する事項

①企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

②発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

(多額な資金の借入)

当社は、2023年2月21日開催の取締役会において、資金の借入について決議を行い、借入を実行しております。

借入先	三井住友銀行
用途	M&A資金の確保
借入金額	1,200百万円
借入金利	基準金利+スプレッド
借入実行日	2023年3月13日
返済予定日	2023年8月10日
担保の有無	無
保証の有無	無

(重要な設備投資)

当社は、2023年3月28日開催の取締役会において、以下のとおり本社移転に関する投資予定額について決議いたしました。

(1) 設備投資の目的

当社は、2023年10月に、本社の移転を予定しております。従来、本社移転に係る投資予定額を2,800百万円としておりましたが、投資内容について精査した結果、3,840百万円とすることといたしました。

(2) 設備投資の内容

- ① 所在地 東京都港区
- ② 用途 本社機能
- ③ 投資予定額 3,840百万円

(3) 設備の導入時期

2023年10月の移転を予定しております。

(ESOP信託の追加拠出)

当社は、2023年4月10日付の取締役会において、当社及び当社子会社へのインセンティブ・プラン「株式付与ESOP信託」(以下、「本制度」)について、金銭の追加拠出を実施することを決議いたしました。

1. 追加拠出の理由

当社は、2016年1月より本制度を導入しております。継続的にインセンティブ・プランとして株式を交付する予定であるため、主として株式の取得資金を株式付与ESOP信託に確保するため、金銭を追加拠出することとしました。

2. 信託の概要

(1)	信託の種類	特定単独運用の金銭信託以外の金銭の信託(他益信託)
(2)	信託の目的	受益者要件を充足する従業員に対するインセンティブ付与
(3)	委託者	当社
(4)	受託者	三菱UFJ信託銀行株式会社 (共同受託者 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
(5)	受益者	従業員のうち受益者要件を充足する者
(6)	信託変更契約日	2023年4月13日(予定)
(7)	信託の期間	2016年1月15日～2027年2月末日(予定)
(8)	追加株式取得資金	2,000百万円(予定)
(9)	取得株式の株数	88,500株(予定)
(10)	株式の取得期間	2023年4月18日～2023年5月2日(予定)
(11)	株式の取得方法	取引所市場より取得

- (注) 1. 受益者要件を充足する従業員への当社株式の交付により信託内に当社株式がなくなった場合には、信託期間が満了する前に信託が終了します。なお、当社は、ESOP信託に対し、当社株式の取得資金として追加で金銭を信託する可能性があります。
2. 取得株式の株数については、(8)追加株式取得資金で定められている金額を上限に、取得時点の株価によって変動する可能性があります。